
少年とアトランティス

由一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

少年とアトランティス

【Nコード】

N3573U

【作者名】

由一

【あらすじ】

そこにしか無い漫画雑誌を求めて、少年は本屋に入る。
そこはとても居心地の悪い本屋だった……

本屋「ハルコ堂書店」は、立ち読み禁止である。

怖い店主のおばさんが常にそのぎょろりとした目で店内を監視している。

小学6年生の牧田良治まきた りょうじにとってはこの空間はとても居づらい場所であつたが、月に一回は止むを得ず訪れていた。なぜなら、この本屋にしか売っていない雑誌があつたのだ。

「少年アトランティス」。

良治が手に取つたのはそんな名前の漫画雑誌だつた。お小遣いは毎月500円である彼にとっては、その80%を吸い取るこの雑誌は高価なものであつたが、それ以上の価値があつた。

魚人のような顔立ちの店主のおばさんに、ビニールひもを十字に巡らされたを渡す。

おばさんは、一度「少年アトランティス」を舐めるように見まわすと、「290円」と言つた。

良治はそれに驚いた。「少年アトランティス」はいつも390円なのだ。

このおばさんは、値段を間違えたのだろうか？ それとも、値引きしてくれたんだろうか？

ここで、そのまま290円を払って店を出る人間もいただろう。

しかし、良治の善良で真面目な性格はそれを許さなかった。

「おばさん、これ390円ですよ。」

きちんと、そのわだかまりを解決しようとした。

おばさんは怖かったが思っていた事を正直に言った。

「あらま。」

おばさんは、目をぎょろりと丸くするとすぐに一度雑誌の後ろの値段を見る。そして、10秒程制止したのちこう言い放った。

「一月前の私がそう言ってたから間違えちゃったよ。はい、390円だからおつりは110円ね。」

何も無かったように、さっと良治の手に100円玉一枚と5円玉2枚が乗っかる。

良治はそれをそのままポケットに突っ込むと、店を出た。

外は、日差しが強く。空は青で雲ひとつなかった。
どこからか、魚の匂いがある。近所には魚やも無いのに、じんわりとどこかから。

しかし、良治の心の中は「少年アトランティス」のことでは
いだった。

先月号で最高潮を迎えた「モノリスマン剛」の続きの事でいっ
ぱであった。

背後にそびえ立つ天空まで続くエレベーターに気付く事も無く、
彼は平凡なコンクリートの大地を踏みしめ続ける。

ポケットの小銭がこすり合っじゃらじゃらと音を立てた。
390円の重圧はそれに紛れ、手元の間隔は失われた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3573u/>

少年とアトランティス

2011年10月9日04時02分発行